

2年道徳：資料を読んでワークシートの問いを考えていこう。

プリントアウトできない人は  
ノート等を書いておきましょう。

『医療従事者の現状』…思いやり・感謝（資料①～②）

学習日 令和 2 年 月 日

組 番 名前

問1 新型コロナウイルス感染症の最先端に立つ医療従事者の現状について、休業期間中に新聞やニュース、生活の中で見たり聞いたりしたことはありますか？そこでどう思いましたか？

問2 資料①～②を読んで感じたこと、考えたことを書いてみましょう。

問3 医療従事者の方へメッセージを送ろう。

【振り返り】

教材について興味をもって読むことができた。	A	B	C	D
自分の考えをまとめることができた。	A	B	C	D
今回の内容（テーマ）について、深く考えることができた。	A	B	C	D

A：意欲的にできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった

提出日：学校が再開してから集めます。後日、お知らせします。

## 資料①

新型コロナウイルスの深刻な院内感染が起きた疑いが強い、東京都内の病院の現役の看護師が、患者だけではなく、医療従事者にも次々と感染が広がった状況を初めて証言しました。現場が混乱する中、残された看護師の負担は増し、「院内は、日々のシフトも決まらないような状態だ」と明らかにしました。

医療現場の実態を多くの人に知ってほしいと、NHKの取材に応じました。

それによりますと、看護師は、院内感染の発生について、「病棟の患者さんが感染し始めて、調べたら、**どんどんどんどん感染していった感じだった。どのように広まったのか、自分たちもわからない状況の中で働くという恐怖感があった**」と話しました。

そして、医療現場の現状について、「以前は患者ごとに交換していた防護服も、現在は1日に使える数が限られている。雨がっぱを代用したり、袋をつなぎ合わせて頭からかぶるようなものを作っている」と述べ、医療従事者の感染防止のための防護服などが依然として不足しているということです。

また、「1人でも看護師が陽性になると、その周囲にいた看護師も2週間の待機に入るので、どんどん足りなくなり、1人の勤務日数が増えていき、かなりきつくなっている。日々のシフトも決まらないような状況で、すでに院内は医療崩壊をしているように感じる」と述べました。

さらに同僚の中には、自身の家族への感染を懸念し、やむをえず仕事を辞める看護師もいるということです。

ただ、現在の仕事について看護師は、「仕事をいつ休んでもおかしくないくらい先が見えない状況だったが、元気に退院する患者を見たり、同僚と一緒に励まし合って頑張り続けることができている。支援物資や地域の人たちからの温かいメッセージに励まされている。**憧れて就いた仕事なので、簡単に辞められないという思いもある**」と述べました。

出典：NHKニュースウェブサイト「院内感染の深刻な実態 看護師が証言 新型コロナウイルス」（2020.4.24）より、一部抜粋】（令和2年5月21日取得）

## 資料②

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）が猛威を振るう現在、医療の現場では切迫した状況が続いています。日本看護協会の調査によれば、医療従事者に対する差別や、人員確保の困難、院内感染の問題など、**医療従事者は心身双方において苦しい状況に置かれています。**

編集部では関東の病院で10年以上勤務する看護師のAさんに、新型コロナウイルス対応の最前線についてうかがいました。病棟では何が起きているのか、院内感染はどのように起きるのか、そして看護師が今いちばん伝えたいことについて、緊急インタビューをお届けします。

### —新型コロナウイルス感染症への対応は、いつごろから始まりましたか。

3月頭くらいからでした。私が勤めている病院は指定感染症病院ではなく、陽性患者の積極的な受け入れはしない予定でしたので、とりあえずスタッフ個々の出勤制限（37度5分以上で出勤不可、体調不良の場合はすぐに休む、など）が設けられました。

マスクや消毒剤の制限も同じくして始まりました。3月の2週目を過ぎたころから、マスクは1日1枚になりました。衛生用品のストック管理も厳しくなり、何日に何個どこに出したか、利用状況がリスト化されるようになりました。

### —病棟ではどのようなことに気を付けていましたか。

**とにかく自分が感染しないこと、そして院内感染を起こさないことを第一に、こまめにアルコールク**ロスでパソコンや器材、ドアや手すりを拭いたり、手指消毒と手洗い、エプロンやゴーグルなどの適切な使用を心がけました。

また、休憩時間は通常2分割であるところを、2~3人ずつ/3~4分割に編成し直し、換気のできる個室や患者さんのいない病室などで1人で過ごすようにしました。中国での医療者の感染は、（医療従事者が）休憩時間に共に過ごして発生したと聞いていたので。

あとはナースステーションでも必要以上に集まらない、距離を取るなどして、気を付けていました。医療従事者はそれぞれ感染防止に努めていますが、知人の勤めている病院では院内感染が出て、病棟が閉鎖になってしまったと聞いています。

——新型コロナへの対応は看護師さんの生活にどのような影響をもたらしましたか。

自粛要請があるのでそもそも出かけないのですが、**実家にはもう帰れないですね。**

休みに関しては、始めの頃は良かったのですが、スタッフが発熱して休むケースが日に日に増えました。看護師は1日の業務をその日のスタッフで分割するため、日常業務が圧迫されたり、急遽夜勤を代わったりしなければならなくなりました。

あと、夢見が悪くなりました。常にコロナの夢を見ます。

——Aさん個人がいま不安に思っていることや、心配していることがありましたら教えてください。

**終わりがなく、そしてこれから更に拡大されることを考えると、精神がもつか心配です。**そうではなくともストレス発散できない状況なので……。いつ友人や家族に会えるのかも見通しが立たず、孤独です。

きっと新型コロナウイルス感染症は、インフルエンザのように今後も付き合わなければならない疾患だと思います。アビガン（インフルエンザ治療薬の一種）が効くとされていますが、今後治療薬ができて、感染力の強い新型コロナウイルスを院内感染させないように行動していくのは、なかなか困難だと思います。2度3度感染している例を見ても、ワクチンがどこまで対応できるのかわかりませんし……。今現在のことも心配ですが、この先の未来もとても心配です。

また、**業務に疲弊して離職者が増えるのではないかという部分も不安です。**私も正直辞めたいです……。でも子どものいる同僚や今まで何年も一緒に苦楽を共にしてきた同僚を考えると、逃げるわけにはいきません。もはや使命感だけで働いています。もちろん危険手当でもありません。

**万が一自分が新型コロナウイルスで死ぬようなことが起きたら、ものすごく後悔すると思います。でも今は逃げられないのです。**この身動きのとれない状況もストレスになっています。

——他に読者の方に伝えたいことはありますか。

感染した人を責めないこと、感染を広げないことを心がけて生活してほしいです。土日の通勤時や SNS で、不要不急の外出を見かけるたびにため息が出ます。

新型コロナウイルス感染症に罹患した患者さんは、日に日に呼吸状態が悪くなり、ご飯もろくに食べられず、3日前まで歩いてトイレに行っていた人でもすぐに息苦しさで動けなくなってしまうこともあります。そのような様子を見ると、看護をしている私も心苦しいです。患者さんは当然家族にも会えず、「もう年だし、こんなに辛いなら死んでもいい」なんておっしゃるんです。それを必死に支えて、ケアして、最前線で全力で働いていても、「ちょっとくらいいいよね？」なんて軽い気持ちで出掛けた人が感染拡大させるのかなと考えたら、心が折れそうです。

また、新型コロナウイルスに感染したためにひどい差別を受けた人もいます。人としてあってはならないことですし、そのような例があると、差別を恐れた人は感染を隠すようになります。それがまた感染拡大の要因ともなります。ベッドが足りないこと、資材が足りないことだけが医療崩壊ではありません。感染症を理由にした差別が広まるのも、医療崩壊です。

出典：ねとらぼサイト『『でも今は逃げられないんです』 現役看護師に聞いた新型コロナ対応の最前線、その苦しい現状』（2020.4.24）より、一部抜粋』（令和2年5月21日取得）